

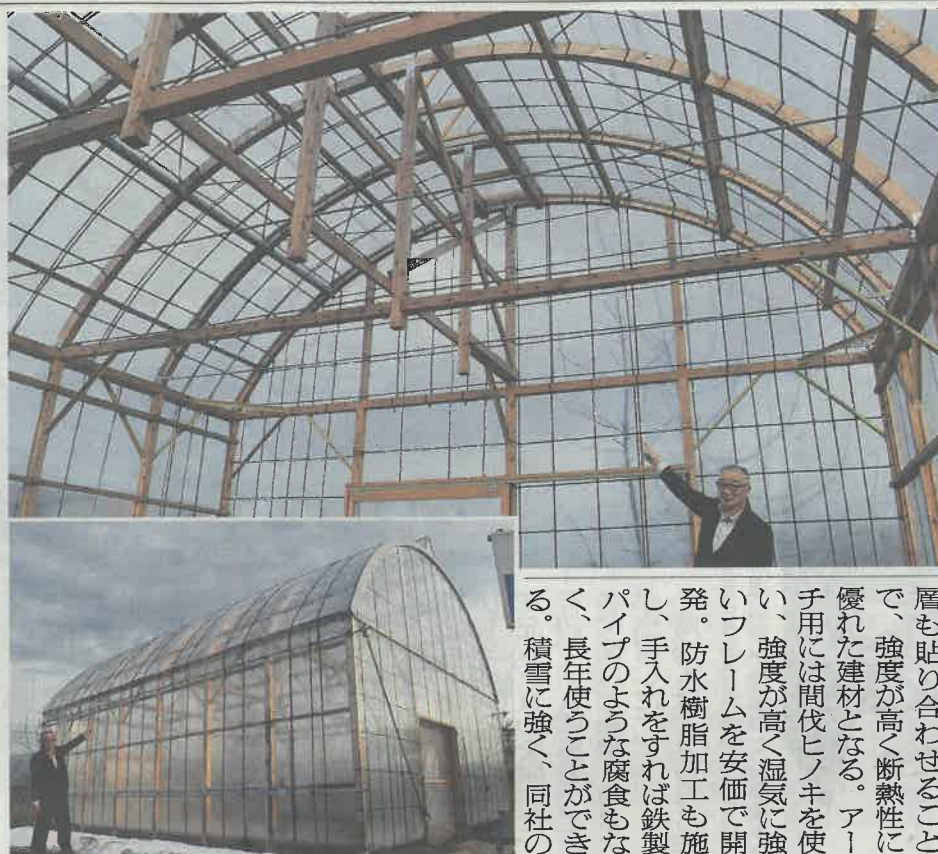
野の雪に強い木造ハウス 長住宅メーカー 独自合板で保温性も

長野県飯山市の木造住宅メーカー・北誠商事は、信州大学工学部などと連携して、独自の合板フレーム技術を生かした農業用の木造ハウスを開発した。頑丈で断熱性の高い木製合板を使い、上からの力に強いアーチを採用し、耐雪・保温性に優れたヒールハウスができる。

製品名は「GREENEX US・FRAME(ジーネクサスフレーム)」。間口幅9・1mの積雪地型など、さまざまなタイプをそろえる。

同社は、木製合板を使用した独自工法で耐震構造の住宅を開発、販売している。住宅用に開発した、屋根と外壁で建物の強度を保ち、柱なしで屋内を広く使えるアーチ技術を農業用ハウスに応用した。

ポイントはアーチに使用する集成材。木材の繊維の方向を縦横交互に何層も貼り合わせることで、強度が高く断熱性に優れた建材となる。アーチ用には間伐ヒノキを使い、強度が高く湿気に強いフレームを安価で開発。防水樹脂加工も施し、手入れをすれば鉄製パイプのような腐食もなく、長年使うことができ、積雪に強く、同社の



住宅メーカーが開発した木造ハウス。「飯山程度の豪雪でも側壁は不要」と話す高柳代表(長野県飯山市)。「飯山程度の豪雪でも側壁は不要」と話

高柳博代表は「実験用ハウスは1・3mの積雪でも倒壊の心配がなかった」と話す。

保温効果が高く、冬はわずかな加温や無加温で栽培できるという。信大工学部の大井美知男特任教授が、昨年11・3月に同市内のハウスで調べたところ、最低温度が5度と、イチゴが無加温で栽培可能な温度だった。

「鉄のハウスは外より温度が下がることもあるが、木の保温効果は高い。夏は断熱作用で栽培に適している」と説明する。

内部は二重カーテンも取り付けられる。価格は、間口6・3m、奥行20・25m、面積126平方メートルの積雪地型ハウス

で400万円(税・運搬費別)。「農家が組み立てれば半額程度で造れる」と(高柳代表)。組み立て図面やDVDの作成も予定する。

収量高める 土づくり学ぶ

全国エコファーマーネットワーク研修会

環境保全型農業に取り組み生産者などをつくる全国エコファーマーネットワークは6日、埼玉県深谷市の埼玉産直センターで土づくりを学ぶ研修会を開いた。生産者など50人が、収量を高める施肥や病害虫にかかりにくい土壌管理について情報を共有した。

土づくり基礎講座として、日本土壌協会の猪股敏郎専務が土壌化学性と収量の関係について講演した。レタスは、土中のリン酸含量に反応し、1

続かんきつの新技術

第2回 口之津研修

進む機能性成分研究

2018年度から「かんきつ新技術・新品種研修」を始める農研機構は、長崎県南島原市にある九州沖縄農業研究



Bクリプトキサンチン 生活習慣病発症抑える

センター口之津カンキツ試験地で2回目の重を開いた。研修の機能性成分関連と導入を紹介する。

第3の資材普及へ メーカー8社が協議会

農業資材メーカー8社は、植物活性資材「バイオステイミュラント」の理解や普及を目的に、日本バイオステイミュラント協議会を設立した。同資材は、アミノ酸や微生物

が必要」と呼び掛けた。この他、線虫被害を抑える対抗作物や緑肥などを紹介した。7日は土づくりに力を入れる同市内の農場を視察する。

1990年代に産地化 打開策として焼き芋戦略を進めたサツマイモ。高をJAから提案した。単価で売り上げを伸ばした。だが景気などの影響を受け、販売高10億円で停滞。

品質そろえ信頼

た。買ってすぐに食べられる焼き芋なら売れる。匂いで集客効果もあり、家庭では作りづらい。「芋の貯蔵性を生かす。品質のばらつき。対策とば、周年で売れる」と考

サツマイモ 焼き芋向け販路開拓

3品種リレー周年供給

茨城県のJAなめがた 営農経済部長の金田富夫さん(58)は、スーパーで店頭販売する焼き芋向けサツマイモの周年供給体制を整え、安定した売り先を確保した。焼き芋にしたときに最もおいしい貯蔵期間を調べ、3品種をリレー出荷する。秋

金田 富夫さん (茨城・JAなめがた)



サツマイモの品質を確認する金田さん(左)と箕輪さん(茨城県行方市)

間とでんぷんの糖化を研究。品種や土質ででんぷん含量が違ってくるから、貯蔵期間で最適な品質を求めた。今は「紅優甘(品種名)にはるか」(8・1月)、「紅まさり(同)にまさり」(9・4月)、「紅いがね(同)にアズマ」(11・8月)出荷を実践する。

食味は良いが栽培が難しくかった「紅まさり」は、「うまい芋作り研究会」をつくり、管理法を確立させた。主力の「紅

こがね」は、2006年 から作付面積の3割に当たる490圃場(約200畝)で芋のでんぷん含量を測定。圃場によって掘り取り時期をでんぷん含量が最も高まる10月中旬・下旬に指定したり、堆肥を投入したりと対策を促した。

1畝当たり220円

取引は2000店舗に増え、1畝単価は05年の142円から15年は220円に上がった。1戸当たり面積も1・5倍の2